

その他

## スタディ・スキルズ獲得支援に向けた 入学前準備教育プログラムの実践報告

Practical report of pre-university preparatory education program for study skills support

吉田澄恵 山花令子 山本由子 田所由利子

Sumie YOSHIDA, Reiko YAMAHANA, Yuko YAMAMOTO, Yuriko TADOKORO

〈その他〉

## スタディ・スキルズ獲得支援に向けた 入学前準備教育プログラムの実践報告

Practical report of pre-university preparatory education program for study skills support

吉田澄恵 山花令子 山本由子 田所由利子

東京医療保健大学 千葉看護学部

Sumie YOSHIDA, Reiko YAMAHANA, Yuko YAMAMOTO, Yuriko TADOKORO

Chiba Faculty of Nursing Tokyo Healthcare University

**要 旨：**東京医療保健大学千葉看護学部では、2019年度推薦入試の合格者に向けて、3つの入学前準備教育を企画し、実施した。本稿は、その活動の経過と内容の報告である。まず1つめは、通信教育を利用した【入学前にやっておこう】、2つめは、看護技術に関するe-learning教材を利用した【看護学の世界をのぞいてみよう】、さらに3つめは、大学の授業見学と在校生によるガイダンスを実施する【大学の授業にふれてみよう】である。これらの企画の立案に際しては、前年度に実施した通信教育の実施後評価、高大接続に関する昨今の議論、大学における初年次教育の課題等の情報を踏まえ、推薦入試合格者が、大学入学後に必要となるスタディ・スキルズの獲得を支援することに焦点をあてた。今後は、これらのプログラムの効果を評価するとともに、一般入試合格者への入学前準備教育の方法について検討していくことが課題である。

**キーワード：**入学前準備教育、高大接続、初年次教育、スタディ・スキルズ

**Keywords：**pre-university preparatory education, high school-university collaboration, freshman education, study skills

### 1. はじめに

1990年代の大学のユニバーサル化以後、大学教育全般で、入学者の学力の低下と高校での学びとの接続の課題が深刻化し<sup>1)</sup>、入学前準備教育または入学前教育、初年次教育、リメディアル教育といった、高校と大学の移行期の教育が重視されるようになって久しい。2018年に国内691の大学から回答を得た調査では、入学前の教育は76%、初年次教育は91%で実施されている<sup>2)</sup>との報告があった。国立情報学研究所データベース(CINII)で、入学前教育で検索すると(検索日2019年5月30日)、265件が該当し、入学前の1日研修プログラム<sup>3)</sup>や初年次教育との連携<sup>4)</sup>、入学前の数学教育の効果<sup>5)</sup>、入試形態別の入学前テスト推移<sup>6)</sup>などさまざまな報告がある。雑誌『看護教育』で

も、近年連載記事として取り扱われ、本学医療保健学部看護学科の取り組みも紹介されている<sup>7)</sup>。

千葉看護学部では、この医療保健学部看護学科の入学前教育プログラムの実績<sup>8) 9)</sup>を有する教員の指導により、1回生となる2018年度の推薦入試合格者に対して、民間業者の通信教育教材を用いた入学前教育プログラムを実施していた。これを受け、学部開設時から着任した筆者らは、「入学前準備プロジェクトワーキング・グループ」を組織した。そして、2019年度推薦入試合格者を対象に、スタディ・スキルズ獲得支援を焦点として、合わせて3つの入学前準備教育を企画・実施した。筆者らは、これらの実施に際し、具体的にどのように準備し、どのように実施したかというプロジェクトの準備から実施までの過程に関する情報を検索したが、多くの文献は、入学前教育の成果を報告・

検討する評価研究のデザインが解説論文であった。そこで、本稿では、評価研究のデザインではなく、実践報告として、入学前教育プログラムの立案過程と実施の実態をまとめる。

## 2. 2019年度推薦入試合格者を対象とした入学前準備教育の運営経過

2019年度推薦入試合格者を対象とした入学前準備教育の概要について、表1にまとめた。以下、このプロジェクト全体の運営を2018年4月からの時系列で述べる。

4月、2019年度入学者への入学前準備教育は、初年次教育を含むカリキュラム運営の所掌事項の多い教務委員会から、入学試験実施委員会担当となった。

5月、着任教員数が限られていたことから入学試験実施委員会委員（以下、入試実施委員）は2名であった。そのため、入試実施運営と合わせて、入学前準備教育のプランを進める最良の方法について他学科での経験豊富な教員から情報提供を受けながら検討した。並行して高大接続や入学前教育、初年次教育の文献検討を始めた。この時点で、入学前教育の対象者は、推薦入試やAO入試で早期に合格が決定した高校生であること、その目的が単に入試選抜による合格者の学力向上を目指すものではなく、推薦入試合格者に対する手厚い教育の実施という高校向けの広報機能があり、継続して実施することにより、公募推薦入試の受験者数の増加につながる可能性があることなどを把握した。

文献検討からは、入学前教育は、必ずしも推薦入試合格者のみを対象とするものばかりでなく、すべての大学入学予定者を対象とする工夫<sup>10)</sup>や、入学前に合宿研修を行う大学<sup>11)</sup>、卒業までを見通したりメディア教育の一環とする<sup>12)</sup>等があるとわかった。しかし、本学部では、一般入試は、1月下旬、2月上旬、中旬、さらにセンター利用試験と3月上旬まで続くため全入学予定者を対象とする場合は、開催時期が3月に限定されること、学部開設2年目の新年度体制を調える時期と重なることなどの理由から、全入学予定者への実施は厳しいと判断し、推薦入試合格者を対象とした企画に絞ることとした。

6月初旬、2018年度推薦入試合格者を対象に実施された通信教育の実施内容と実施評価報告を前年度依頼業者より受けた。報告内容は、2018年度対象者は、課題の提出率が100%であり、自己学習時間は3時間で、知識の程度や学習習慣の傾向の把握や学習習慣の継続に効果が期待できること、学びに対する希望を把握することにつながったというものであった。これに

より、通信教育の利用は、少なくとも学習習慣の継続に一定の効果が期待できることを確認した。一方で、テキストの難易度を低いと感じている対象者も複数いることや入学後の大学での学びへの不安が喚起されそのフォローを求めていることもわかった。そこで、同社のオプションプランや異なる業者の入学前教育プログラムを調べた。また、大学入学後の不安への対応として、本学部で契約している看護技術のe-ラーニング教材の活用や、入学後のスタディ・スキルズ獲得の準備を開始できるよう、医療保健学部看護学科で実施している大学の授業見学と学修ガイダンスを実施することを構想した。

プログラムを展開していくに際し、入試実施委員2名では対応力に限界があることが予想された。そのため、着任している全20人の教員で担っているさまざまな課題を考慮し、2名の教員を追加して、計4名で「入学前準備プロジェクトワーキング・グループ」を組織することを、本学部の意思決定機能を有する領域責任者会議に諮った。

7月初旬、構想に沿って3つの企画を明文化した。まず、前年度の実績から、2019年度推薦入試合格者にも同じ業者の通信教育を、【入学前までにやっておこう】という企画タイトルとして位置付けて継続することとした。あわせて、看護技術のe-ラーニング教材を配信する企画は、【看護学の世界をのぞいてみよう】とし、ミニ講義と学修ガイダンスは、【大学の授業にふれてみよう】とした。それぞれの企画では、目的、方法、評価、経費について、学部長ならびに事務部長に相談しながら明確にした。すべての事項は「入学前準備プロジェクトワーキング・グループ」の立ち上げを含めて、領域責任者会議で審議・承認を得たのち、教授会で全教員に報告した。なお、2019年度の入学前準備教育の目的は、2019年度推薦入試合格者が、本学部入学までの期間に自己学習習慣を継続し、本学に入学すること、看護学を学ぶことへの関心や意欲を維持でき、入学後のスタディ・スキルズ獲得の準備を開始できるようにすることとした。

同時に、企画立案において最も優先したことは、現実的なタイムスケジュールであった。特に、【大学の授業にふれてみよう】の開催時期は、医療保健学部看護学科の同様の企画では12月であったが、本学では、11月初旬の推薦入試の実施、1月下旬から始まる一般入試の実施に伴う準備、高校側・推薦入試合格者への周知期間、高校の通常スケジュールに重ならない推薦入試合格者の参加可能な日程、企画準備の時間的限界を考慮し、2月の学部定期試験実施後での実施とした。

表1 2019年度推薦入試合格者を対象とした東京医療保健大学千葉看護学部入学前準備教育の概要

<p>東京保健医療大学および千葉看護学部における運営上の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本プロジェクトは、全学の中では、学部独自企画の位置づけにあり、学部長を責任者とし、千葉看護学部内の意思決定組織である領域責任者会議における審議・承認を経て、教授会で報告して実施するものと位置付けられる。</li> <li>● 本プロジェクトには、学部教育における教育の質の向上をねらうこと（教務委員会担当）と、推薦入試合格者支援プログラムを有する学部であるというインパクトをもたらすこと（広報委員会担当）、公募推薦入試受験者を増やし、推薦入試合格者全体の水準を上げること（入試実施委員会担当）という要素があるものの、今年度は、入試実施委員会が担当する。</li> <li>● 事務部門では、大学入試広報部が掌握する入学予定者の情報が不可欠であり、入学予定者の情報等は、入試広報部と千葉事務部の連携のもとで管理される。それゆえ、学部長等会議で了解の後、千葉事務部の協力を得る。また、本プロジェクトの対象者のフォローは、入学後の初年次教育との連続性の中で検討する必要があるため、千葉事務部内では、教務事務職員を中心として協力を得る。</li> </ul>
<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度の推薦入試合格者が、本学部入学までの期間に、自己学習習慣を継続し、本学に入学すること、看護学を学ぶことへの関心や意欲を維持でき、入学後のスタディ・スキルズ獲得の準備を開始できるようにする。</li> <li>● 多くの受験生にとって、本学部の推薦入試合格が、魅力ある選択肢とするためのよりよい企画を構想できるようにする。</li> <li>● 高大接続の動向を踏まえて、入試改革後の高校との連携方法を見出していく契機とする。</li> </ul>
<p>主要企画の構想と運営案</p> <p>【入学前にやっておこう】「看護・医療系入学前教育プログラム」（進研アド<sup>a)</sup>）の通信教育。</p> <p>目的：高校までに学んだ生物系、化学系、物理系、数学系、日本語系の知識について、看護・医療系に必要な内容を総復習し、自己の課題を知り、確実に習得するとともに、推薦入学決定後から大学入学までの期間に、学習時間確保、学習活動を継続できるようにする。</p> <p>対象：推薦入試合格者全員。</p> <p>方法：業者通信教育の実施と同プログラムを有効利用するためのポイントを示す文書の配布。</p> <p>評価：業者集計による実施状況・成果獲得状況および、入学後アンケート。 本プログラムの導入による推薦入試受験の効果については、経年的に評価する。</p> <p>経費：大学教務部</p> <p>【看護学の世界をのぞいてみよう】看護技術e-ラーニング教材（ナーシング・スキル日本版<sup>b)</sup>）の配信。</p> <p>目的：入学後に学ぶ看護学の内容の一端や動画教材を用いた学修を知り、看護学への関心を維持し、一般入試合格者よりも少し早く入学前の準備を始められたと感じることができるようにする。</p> <p>対象：推薦入試合格者全員</p> <p>方法：ナーシングスキル日本語版のID等と利用ガイド（簡略版作成）を配布。</p> <p>評価：利用実績の確認および入学後アンケート。</p> <p>経費：教育費範囲内にて新たなコストは不要。</p> <p>【大学の授業にふれてみよう】授業見学と学習ガイダンスの実施。</p> <p>目的：大学の授業の一部を見学し、入学後の学修方法の一端を知り、自主的自律的な自己学習時間の確保と方法の習得の必要性を理解し、各自で大学入学の準備を考える契機とする。</p> <p>対象：推薦入試合格者全員（任意の申込制）。</p> <p>方法：2019年2月9日（土）13時～15時とし、参加者を大学に招き、教員からのガイダンス・学部生対象の特別講義の見学・学部生との交流のプログラムで運営する。</p> <p>評価：参加者へのアンケート・担当講師および協力が在学生へのヒヤリング。</p> <p>経費：講師へ謝金・交通費および在学生との交流等運営協力が在学生への謝金は、大学本部に諮る。 特別授業参加学部生は、受講費用無料とする。</p>

a) 株式会社進研アド，入学前教育支援，<http://shinken-ad.co.jp/service/solution4-1.html>，(参照 2019-08-27)

b) ELSEVIER，ナーシングスキル日本版，<https://www.nursingskills.jp/>，(参照 2019-08-27)

12月初旬、企画についての案内は、通信教育の教材が推薦入試合格者に届く予定になっていたため、11月の推薦入試合格発表後、速やかに推薦入試合格者および高校側に対して発送した。案内の発送先は、高校側教員の了解のもとに実施することが推薦入試合格者にとって参加しやすいことや本学部の取り組みを周知できることから、申込案内（表2）に、校長宛の協力依頼文書を添えて郵送した。また、案内には、企画へ

の参加自体は無料だが、【看護学の世界をのぞいてみよう】通信費や【大学の授業にふれてみよう】参加の交通費は自費であることなどの注意事項を明記した。

同企画への参加申込みの締め切りは、参加が任意であり、参加人数によって企画を柔軟に変更することを考慮し1月中旬に設定した。【大学の授業にふれてみよう】の内容では、参加予定者の通信教育の実施やe-ラーニング教材の利用状況を把握し、予測のつく範囲

表2 大学の授業見学とガイダンス【大学の授業にふれてみよう】の申し込み案内の内容

日 時：	2019年2月9日(土) 13:00~15:00(12:30~受付開始)
場 所：	千葉看護学部 船橋キャンパス
プログラム：	<b>1部：特別授業の一部見学</b> 「体の仕組みと働き演習一体の中の水分」 看護学においては、人の体がどうなっているかを学ぶことは非常に重要です。 実際の授業の一部を見学後、大学での学修のガイダンスを行います。 <b>2部：在学中の先輩との交流</b> ノートの取り方やレポートの書き方、大学生活についての話を通して先輩と交流をし、大学で必要なスタディスキルズを知る機会とします。
持ち物：	筆記用具
費 用：	受講料は無料です。交通費は各自でご負担ください。
申し込み方法：	参加希望の方は <u>1月15日(火)</u> までに「 <u>OO@thcu.ac.jp</u> 」宛でのメールで下記3点をお知らせください。 ・件名：大学の授業にふれてみようへの参加希望 ・お名前 ・電話番号(こちらからの受信が可能な番号)

で参加者のレディネスに応じられるよう検討した。なお、いずれの企画においても、諸経費の確保は重要課題であり、通信教育は大学教務部が全学的に実施しているものの、新たな企画の経費については、最小の金額となるよう考慮し、大学本部に諮った。

このように入学前準備教育プログラムは、各企画が推薦入試合格者にわかりやすく、興味と関心を喚起して取り組んでもらえるよう工夫をした。そのため、9月初旬から入学前準備プロジェクトワーキング・グループ会議を開催し、担当を決めて実施に向けて準備を開始した。同会議は、細かな打ち合わせを除き、開催までに7回、終了後1回の計8回開催した。今後は、高校側に意見等を聴取するなどして、高大接続の観点から、どのような入学前教育を求めているか検討していく必要があると考える。

#### 4. 各プログラムの実施および課題の考察

##### 1) 通信教育を利用した【入学前にやっておこう】

前年度に入学前準備として使用した通信教材<sup>13)</sup>の利用は継続することとした。加えて、2019年度はスタディ・スキルズの獲得を支援できるように、読む、調べる、整理する、書く、まとめる、考える、表現する、伝えるスタディ・スキルズを取り入れた自己学修ポイントを示した文書を作成し配布した(図1)。作成に際して、スタディ・スキルズの文献や、初年次教育として医療保健学部看護学科が作成して千葉看護学部入学生にも許諾を得て配布

している「大学での学び方 スタディ・スキルズ」等を参考にした。

明示したポイントは、「ピンとこない、似ているけれど区別できない、具体的にイメージできない言葉は、辞書などをつかって、確認しよう」「すっきり読めない漢字が出てきたときには、読み方と意味を調べてみよう」「カタカナは、もともとは、英語であることが多いので、英語のスペルを調べ、和訳もみてみよう」「課題で問われていることが何かを○やアンダーラインをつけて、はっきりつかもう」「意味が‘曖昧’、‘わからない’言葉を人に説明できるように調べてまとめてみよう」の4つであり、イラストを入れ、A4用紙1枚で視認性を考慮した。

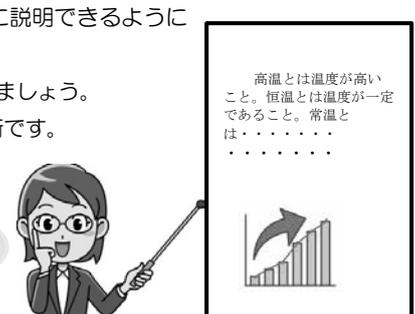
##### 2) 看護技術に関するe-learning教材を利用した【看護学の世界をのぞいてみよう】

本企画は、学部教育への利用として契約しているナーシング・スキル日本語版<sup>14)</sup>の活用であり、コンピュータやモバイル端末で利用可能なものである。契約上、本学部が教育目的の範囲でユーザー登録することができるため、新たな費用負担は発生しない。

本学部では、入学と同時にパーソナルコンピューター(PC)を貸与し、情報通信技術のリテラシーを身に付け、卒業後も生涯学習に活用できることを推進している。加えて、1年次前期から、このweb教材を利用し、授業の事前学修、事後学修などで積極活用するように働きかけている。専門職養成教育では、アーリーエクスポージャーが初年次教

<b>ポイント1</b>	<p>・ピンとこない、似ているけれど区別できない、具体的にイメージできない言葉は、辞書などを使って、確認しよう。</p> <p>例：割合と比率、高温と恒温と常温、重さと比重、家庭と家族、呆然と愕然</p>
<b>ポイント2</b>	<p>・すっきり読めない漢字が出てきたときには、読み方と意味を調べてみよう。</p> <p>例：緩衝、平衡、解糖、播種性、汎発性、普遍、出納、措置、蔓延</p>
<b>ポイント3</b>	<p>・カタカナは、もともとは、英語であることが多いので、英語のスペルを調べ、和訳もみてみよう。</p> <p>例：マトリックス、グラフ、リソース、データ、コミュニケーション、グローバル、リテラシー、コア、フィードバック</p>
<b>ポイント4</b>	<p>・課題で問われていることが何かを○やアンダーラインをつけて、はっきりつかもう。</p> <p>例：<u>正しい</u>ものを<u>一つ</u>選べ <u>前後を比較</u>して<u>あなたの考え</u>を述べなさい</p>
<b>ポイント5</b>	<p>・意味が‘曖昧’、‘わからない’言葉を人に説明できるように調べてまとめてみよう。</p> <p>*右記のように、A41枚程度にまとめてみましょう。</p> <p>*図や表などを含めるのも相手に伝える技術です。</p>

『記載されているポイントの説明がわからない』場合には、2月9日のガイダンスの時にご相談ください。



高温とは温度が高いこと。恒温とは温度が一定であること。常温とは……

図1 通信教育を利用した【入学前にやっておこう】のポイント

育で重要とされている<sup>15) 16)</sup>。この教材を入学前から利用した経験があることは、入学後の大学における看護学の学修に直結すると考えられた。また、e-learningを通して、より専門的な内容にふれることによって看護学を学ぶことへのモチベーションが喚起されると考えられた。ただし、元来は看護師有資格者の現任教育のために制作されているため、専門用語で構成されており、在学生への利用ガイダンスについても試行中の段階にある。よって、高校生である推薦入試合格者には理解することを目標とせず、【看護学の世界をのぞいてみよう】と題し、動画教材の閲覧をいざなう簡略版利用ガイド(図2)を作成した。

### 3) 大学の授業見学とガイダンス【大学の授業にふれてみよう】

本学医療保健学部看護学科の企画を参考にして企画した。推薦入試合格者が、在学生向けの特別授業を見学するスタイルとした。講師には、医療保健学部看護学科の入学前教育の経験があり、かつ、本学部1年生の「からだの仕組みと働き演習」の科目担当教員に依頼し、高校での生物の学びが大学の授業につながっていることがわかる授業の一部を見学するものとした。

プログラム全体は、まず、①特別授業の見学前

に、目的とこの授業の大学カリキュラムにおける位置づけを紹介し、見学中にはわからなかった言葉などをノートにとってみることを促すオリエンテーションを実施した。また、②授業見学は、集中力の途切れない30分弱とし、③授業見学後に、これを受けた学修ガイダンスを15分程度実施した。その後、④入学後の学修に役立つ入学前の取り組みについて、推薦入試合格者である在学生が経験談を紹介し、⑤同じく推薦入試合格者である在学生1名をそれぞれ配置した6名程度の小グループで、在学生から実際に使用しているノートを見せてもらいながら交流した。茶菓飲料でリラックスできるように工夫し、遠方からくる学生の交通を考慮し、開催時間を午後の3時間とした。そのため、申込み、受付、参加連絡、当日の案内、会場設営、配布資料の準備、欠席者への対応など、綿密な準備を行った。また、経験談を話す在学生には発表原稿作成をサポートし、交流の場の協力学生には、ノートの準備や参加者から出ると想定される質問などを一緒に考えるサポート、および、オリエンテーションを実施した。

授業見学で行われた特別授業のテーマは、「体のなかの水分」として在学生の参加募集を行い、最終的に12名が参加した。アクティブ・ラーニング形式の授業案を検討し、授業内容を工夫した。その結

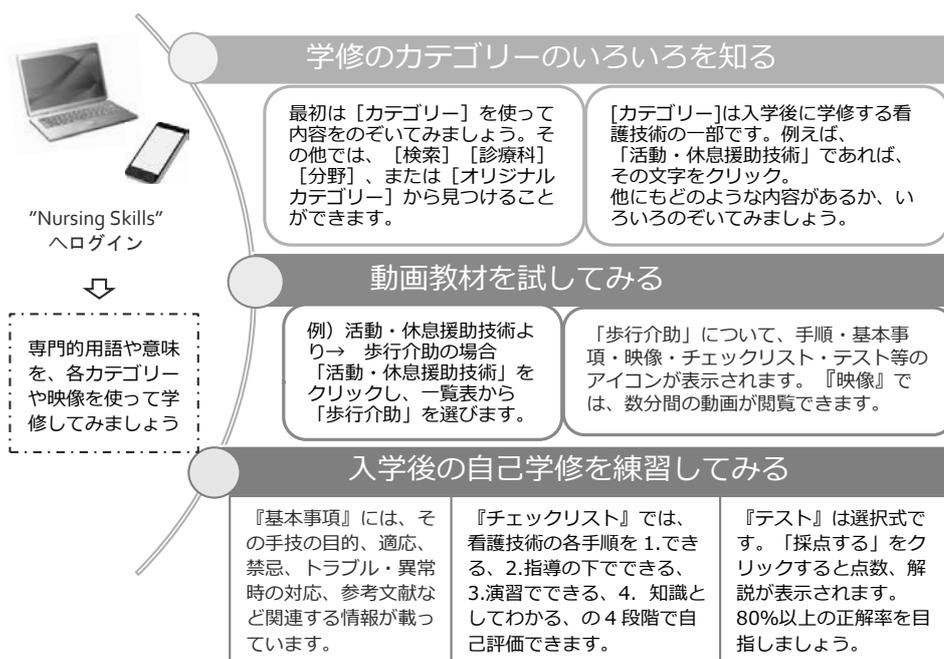


図2 e-learning教材を利用した【看護学の世界をのぞいてみよう】の内容説明（「Nursing Skill を試してみる」自己学修のための資料より再編）

果、一日水分摂取量と尿量計測を事前課題としたゼミ形式の授業となり、当初予定していた90分に活発な質疑応答30分を加えた充実した時間となった。

特別授業見学後の学修ガイダンスでは、通信教育は5回中3回の提出が終わった集計結果として、ほぼ全員が提出していることにふれ、かつ、e-learning教材の利用では、半数程度にログイン実績があり、ログインした人では1から28手技を閲覧しているといった実績も調べて紹介した。通信教育の際に配布した学修ポイントに加え、時間を管理するスタディ・スキルズや、具体的な大学の授業でのノートの取り方を含め、スタディ・スキルズの獲得支援に焦点をおいたミニレクチャーを行った。

当日のアンケートでは、参加した推薦入試合格者28名全員から回答が得られた。特別授業見学、学修ガイダンス、先輩の経験談、在学生との交流のすべてにおいて、「参考になった」「やや参考になった」と回答があり、高い満足度が得られ、特別授業に関連して生物の復習をしようと思ったという記載が多かった。また、特に、先輩の経験談と在学生との交流は全員が参考になったと回答した。自由記載には、大学入学後の不安が軽減したとの記載もあり、授業見学の他に、在学生との交流へのニーズが高いことがわかった。また、小グループでの交流では、合格者同志の連絡先交換の場にもなっており、その後の交友に継続された可能性もある。なお、同日は、大雪警報が発令した地域もあり、当日の開催

における危機管理を直前にを行い、参加予定者32名中3名がやむなく欠席となり、当日の配布資料を後日郵送するという対応を行った。

## 5. おわりに

今回取り組んだ入学前準備教育プログラムは、スタディ・スキルズの向上に焦点をあてたが、参加者は在学生との交流に高い満足度があり、大学入学後の不安への対応のニーズが高いことは一つの特徴であった。入学後、【大学の授業にふれてみよう】の参加者が、プログラムで出会った上位学年の学生にノートの取り方などをさらに聞いているという情報も得られている。また、一般入試合格者からもスタディ・スキルズ個別支援の声があった。2019年5月には、全新生を対象にスタディ・スキルズの修得状況、入学前準備教育プログラム参加者には本プログラムの有用性についてアンケート調査を実施した。さらに、千葉看護学部では、2019年度より初年次教育とも合わせて、学生たちが順次、スタディ・スキルズを向上していくための学修支援を検討する委員会を新たに発足した。今後は、推薦入試合格者だけでなく、一般入試合格者も含めて、初年次教育と続く効果的で、実行可能な入学前準備教育の実施に向けて、検討していきたい。

## 謝辞

入学前準備教育の実施および本報告の執筆にあたりさまざまにサポートいただいた宮本千津子学部長ならびに、医療保健学部高野海哉講師、千葉看護学部教職員一同、プロジェクトに協力してくれた在学生および参加した学生の皆さんにこの場を借りて、御礼を述べる。

## 文献

- 1) 山内乾史. 第1章大学の授業とは何か 京都大学高等教育授業システム開発センター編 大学授業研究の構想—過去から未来へ. 東京: 東信堂 2002; 5-54.
- 2) 朝日新聞社×河合塾. 共同調査「ひらく日本の大学」事務局. 2018年「ひらく日本の大学」調査結果報告書. 2018年12月; 9.
- 3) 田上正範. 新入生の意欲を掻き立てる入学前教育プログラムの実践報告. 追手門大学基盤教育論集 2019; 6: 75-85.
- 4) 南木 睦彦. 入学前教育と初年次教育の連携 流通科学大学の「気づきの教育」への円滑な移行と準備 (特集 入学前教育の現状と課題). 大学時報 2019; 68 (384): 60-65.
- 5) 當山明華, 中川幸久. 入学前教育における数学の授業の効果と今後の課題. 長崎大学教育イノベーションセンター紀要 2017; 8: 81-85.
- 6) 菅原良. AO・推薦入試合格者の学力推移と学習傾向—入学前教育におけるプレースメントテストおよび修了テストの時系列で—あの分析から—. 明星大学明星教育センター研究紀要 2018; 8: 17-25.
- 7) 林世津子. 学修への意欲を高める入学前教育 進んで学習する姿勢を身に着ける看護学科入学前教育プログラム. 看護展望 2016; 41 (13): 1274-1278.
- 8) 林世津子, 富岡晶子, 島田祥子他. 東京医療保健大学医療保健学部看護学科 入学前教育プログラムの効果. 東京医療保健大学紀要 2015; 10 (1): 23-28.
- 9) 林世津子, 島田祥子, 富岡晶子他. 東京医療保健大学医療保健学部看護学科 入学前教育における学び方の学び—授業体験会のレポート分析から. 東京医療保健大学紀要 2015; 10 (1): 53-56.
- 10) 南木睦彦. 入学前教育と初年次教育の連携: 流通科学大学の「気づきの教育」への円滑な移行と準備 (特集 入学前教育の現状と課題). 大学時報. 2019; 68 (384): 60-65.
- 11) 吉村雅文, 青木和 浩. アスリートを対象とした入学前教育: 順天堂大学スポーツ健康科学部の取り組み (特集 入学前教育の現状と課題). 大学時報. 2019; 68 (384): 46-51.
- 12) 山下研一. 入学前準備教育から卒業まで続くリメディアル教育 (学士力の要請に応えるために). リメディアル教育研究. 2009; 4 (2): 162-166.
- 13) 株式会社進研アド, 入学前教育支援, <http://shinken-ad.co.jp/service/solution4-1.html>, (参照2019-08-27)
- 14) ELSEVIER ナーシング・スキル日本版, <https://www.nursingskills.jp/>, (参照2019-08-27)
- 15) 岸川礼子, 安藝敬生, 稲岡奈津子他. 若手薬剤師に対する専門領域想起体験 (アーリーエクスポージャー) の実施後評価. 医療薬学 2017; 43 (1): 41-44.
- 16) 加藤博之, 松谷秀哉, 小林只, 大沢浩. プロフェッショナルリズムの涵養を主題とした初年次教育科目「臨床医学入門」の試み. 21世紀教育フォーラム 2016; 11: 31-37.